

教師教育に関する質的検討

～新任保健体育教師の一年間の語りから～

西川 東作 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 南島 永衣子

キーワード : Grounded Theory Approach, インタビュー調査, 成長プロセス, 教師教育

1. 緒言

現在, 教師教育の重要性が叫ばれている. そのため本研究では新任保健体育教師の 1 年間の成長を, インタビュー調査を行いその検討を行った. その際「新任保健体育教師は何を語るのか?」という Reserch Questionのもと Grounded Theory Approach (木下, 2003) を用いて質的に検討した.

2. 研究方法

調査対象は新任保健体育教師(正規採用 1 年目), 京都市立 K 中学校, K 教諭 (男性) に依頼した.

調査期間は各学期終了時にインタビューマニュアルにそって, 30 分～60 分の半構造化されたインタビューを実施した.

3. 結果と考察

インタビュー調査を行い, 内容を分析していく中で, 学生に対しての「学生時代に身につける力のプロセス」(図 1), 教師自身の「充実感・達成感の獲得欲求のプロセス」(図 2) の 2 通りの成長プロセスを見出すことができた. このプロセスの中で教師はどのように成長するのか, 学生はどのような力を身につければいいのか知ることができた.

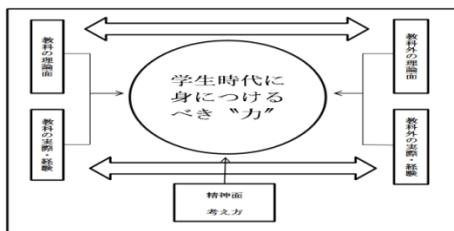


図 1 学生時代に身につける力のプロセス

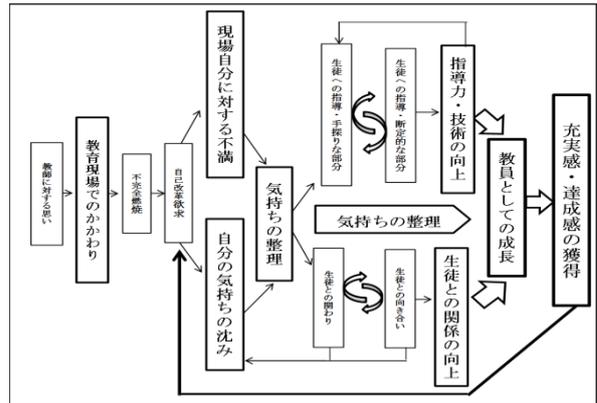


図 2 充実感・達成感の獲得欲求のプロセス

4. まとめ

新任保健体育教師は自己の改革欲求を感じ, それを達成しようと試行錯誤をしていることが示された. そして新たな充実感, 達成感を得るために, 生徒への指導を通して指導力・技術力の向上を図っていた. また生徒との関わりや生徒との向き合うことで, その関係の向上に努めていた. 以上のことにより充実感・達成感の獲得には経験的な部分が欠かせないポイントとなってくることを示唆された.

本研究により, 今の教師教育の分野で理論的な部分, 指導法, 技術的な面に関して学ぶことはもちろん, それに加え, 経験的な部分, 現場での経験が積めるような実習に関する教師教育を行っていくことが課題であると仮説的知見として見出すことができた.

引用・参考文献

木下康仁 (2003) M-G T A グラウンテッドセオリーアプローチの実践 質的研究への誘い. 弘文堂.